

平成30年2月1日

まちづくり委員会資料

川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画（案）
の策定について

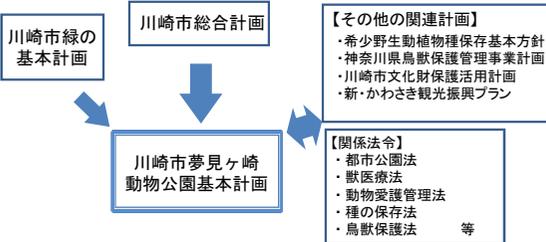
建設緑政局

1. 計画の趣旨

■本計画は、夢見ヶ崎動物公園の今後のあり方について、期待される役割を踏まえ、多くの市民や企業など多様な主体と連携し、新たな地域コミュニティ形成とともに、魅力と賑わいを創出していくための基本方針及び取組の方向性を示すものです。

■本計画は、「川崎市総合計画」及び「川崎市緑の基本計画」の他に、種の保存、野生動物の保護及び加瀬山*の貴重な文化財の保全などに関連する計画とも整合を図りながら施策を推進するものです。

※「加瀬山」とは、夢見ヶ崎動物公園と民有地を含めた全体を指します。



■本計画の計画期間：平成30(2018)年度から平成39(2027)年度まで

2. 現状

■概要

- ・公園種別：都市公園（地区公園）
- ・経過：S25 夢見ヶ崎公園開設
S32 都市公園として公告
S49 公園内に動物園を設置
- ・管理面積：約6.6ha
- ・展示動物：64種類309点（H29.4.1現在）
- ・入園料：無料

■利用状況

- ・平成28年度来園者数：約30万人
- ・利用者の約70%が川崎市民
- ・30歳～49歳（子ども連れ）の利用が半数以上

■現在までの取組

- ・飼育動物の展示、負傷野生動物の保護・受け入れ、サマースクール等の環境教育学習の実施
- ・「動物園まつり」等のイベント開催（年4回）
- ・ボランティアによる花壇の整備や樹木の剪定、商店街や町内会での広報物の掲示などの協働の取組を実施
- ・サポーター制度の開始（サポーター数:5団体・43人）

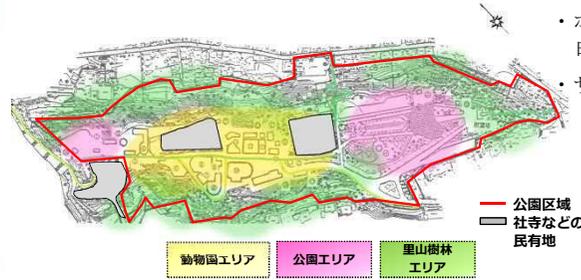


図 夢見ヶ崎動物公園 エリア構成



動物園まつり
(動物ガイドツアー)



サマースクール
(館づくり実習)

■来園者アンケート結果
(平成28年2月～3月)
回答数617

- 動物公園の良いところ
 1. 入園無料(88%)
 2. 広場や遊び場がある(47%)
 3. 年中無休(46%)
- 設置・充実してほしい施設
 1. 売店・自販機(45%)
 2. 休憩室・授乳室(37%)
 3. 動物展示(29%)
- 動物公園でやってほしいこと
 1. 動物にさわる(58%)
 2. えさやり体験(51%)
 3. バックヤードツアー(28%)

■第31回区民車座集会における
主な意見（平成29年12月3日）

1. 売店、飲食施設の設置
2. 歴史、文化を含めたPRの実施
3. 多様な主体との連携の充実

3. 課題

〈動物展示の魅力低下〉

① 展示・飼育施設等の老朽化や動物展示における魅力の低下

- ・築30年以上経過した展示・飼育施設が多く、全体的な老朽化が進行している
- ・動物の生態に配慮していない旧来型の獣舎が多く、動物本来の行動の多様性を引き出せていない
- ・展示動物の高齢化や近親交配が進行している



小動物舎の囲いの破損



旧来型の獣舎（サル舎）

〈サービス水準の低下〉

② 来園者が快適に利用することができる利便施設等の不足

- ・未舗装の広場や段差が生じている園路などにより、ベビーカーや車椅子の利用に支障が出ている
- ・休憩施設や授乳室などの利便施設が不足している

③ 夢見ヶ崎動物公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの不足

- ・動物を通じた環境学習や、加瀬山が有する自然・歴史・文化などの特色を活かした体験・ふれあいプログラムが不足している

④ 飲食機能及び物販サービスの不足

- ・飲食施設の来園者ニーズがありながら、自動販売機以外での飲食の提供がない
- ・来園者が長時間滞在してもらえるようなサービスの提供が不足している



未舗装部の根上り



閉鎖している売店

〈多様な主体との連携と持続可能なマネジメントの確立〉

⑤ 多様な主体との連携の充実と持続性の確保

- ・連携する地域及び主体が限られているとともに、ボランティアの担い手が不足しつつある

⑥ 魅力的な情報の提供や多様な主体との連携による効果的な情報発信力の不足

- ・動物に愛着を感じるような魅力的な情報発信や、様々な主体と連携した効果的な情報発信が不足している

⑦ 調査・研究における最新の知識・技術の取得と活用の不足

- ・野生動物に関する専門的な知見を有する大学等との連携が不足している

⑧ 人材育成や新たな財源確保等を含めた持続可能なマネジメントの確立

- ・職員の専門的な知識や技術の習得機会が不足している
- ・運営や飼育業務を継続的にマネジメントする仕組みがない

川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画（案）の策定について

4. 計画の構成

目指すべき将来像

わくわく、ふれあい、みんなで作る 動物公園

【基本コンセプト】

夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしながら、地域コミュニティの核として、わくわくでき、いきものとふれあえる場を、多様な主体が活用することにより、魅力と賑わいのある持続可能な動物公園を目指します。

基本的な視点

わくわく

● 基本的な視点①

快適でわくわくする空間の創出

ふれあい

● 基本的な視点②

楽しみ、ふれあいたくなるようなコンテンツの充実

みんなで作る

● 基本的な視点③

みんなで作る協働の輪の構築

基本方針と取組の方向性

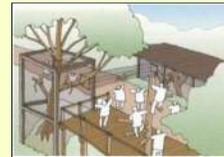
➢ 基本方針 1 施設の計画的なリニューアルに合わせた展示の工夫や園内の利便性・快適性の向上

(1) わくわく感であふれた施設整備

- ・加瀬山の自然や起伏を活かした展示の工夫を取り入れた老朽化した獣舎等の更新・補修
- ・いきものとふれあえる場所の整備とふれあい動物の展示
- ・楽しく遊びながら森の大切さや歴史を知る遊具等の整備

(2) 安全で快適な園内環境の整備

- ・乳幼児から高齢者まで全ての来園者が快適に利用できる施設（休憩スペースや授乳室の設置及び園内舗装等）への改修
- ・主要動線における園内舗装・案内サインの設置による安全性・快適性の向上



自然環境を活かした展示（イメージ図）



動物ふれあいコーナー（浜松市動物園）



遊具等の整備（米プロンクス動物園）

➢ 基本方針 2 夢見ヶ崎動物公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの充実

(3) 動物たちとの距離を身近に感じられるふれあいプログラムの実施

- ・動物ふれあいコーナー設置における動物ふれあいプログラムの実施
- ・動物ガイドツアーやバックヤードツアーの定期的実施



動物ふれあいプログラム

(4) 都心に残る身近な自然の中で、緑の保全の重要性や加瀬山の歴史を学ぶ体験型プログラムの実施

- ・バードウォッチングなどの自然観察会の開催
- ・ボランティア団体による加瀬山散策ガイドツアーの開催

(5) 子どもたちの知的好奇心を醸成させる命の教育や環境教育の実施

- ・好奇心をくすぐる校外学習の充実
- ・職業体験、インターンシップ、研修受け入れ時の教育プログラムの充実



野鳥観察会（川崎市青少年科学館）

➢ 基本方針 3 夢見ヶ崎動物公園の魅力伝える効果的な情報発信力の強化

(6) インターネットやスマートフォンの普及に対応したSNSやICTを活用した夢見ヶ崎動物公園の情報やイベント状況の発信

- ・来園者に動物の個性をもっとよく知ってもらい、愛着を深められる情報の提供
- ・夢見ヶ崎動物公園の魅力が伝わるロゴ・キャッチコピー等の作成・活用によるブランドイメージの向上

(7) 様々な主体との連携による情報発信の充実

- ・公共交通機関や地元商店街、サポーターとの連携による情報発信
- ・市内北部で開催されるイベントを通じた広報活動

QRコードを活用した動物展示ガイド（天王寺動物園 出典「THE PAGE」）



公共交通機関との連携した情報発信（夢見ヶ崎動物公園応援バス）

➢ 基本方針 4 多様な主体との連携の充実による賑わいの創出や、収益性の向上に向けた取組及び持続可能なマネジメントの構築

(8) 多様な主体との連携による取組の充実

- ・サポーターや夢見ヶ崎動物公園に関する様々な地域団体や企業におけるネットワーク形成の推進
- ・民間活力導入も含めた飲食・物販サービスの提供
- ・区役所や民間団体、地域活動団体等と連携した夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしたイベントの推進

(9) 他都市動物園、NPO、大学及び動物専門学校との連携による種の保存等の推進

- ・他都市動物園との動物交換等の連携による展示動物の確保や繁殖の推進
- ・大学及び動物専門学校との連携による調査・研究の取組の推進

(10) 持続可能なマネジメントの仕組みの構築

- ・持続可能なマネジメントの仕組みの検討（民活導入の検討を含む）と取組の推進
- ・ネーミングライツや駐車場の有料化等による財源確保の取組の推進

(11) 人材育成による職員の飼育技術の習得・継承、接遇の向上

- ・専門機関や動物園への派遣研修の充実
- ・職員のおもてなし意識の向上、ホスピタリティの醸成

5. 今後の取組

基本方針	短期 H30～H33 (2018～2021) 年度	中期 H34～H37 (2022～2025) 年度	長期 H38～ (2026) 年度
基本方針 1	再整備に向けた検討 民活導入に向けた検討(基本方針4)	検討結果を踏まえた取組の推進	
基本方針 2	動物に関するプログラム・イベントの充実（ふれあいイベント等）		
		自然や歴史を活かしたプログラムの推進	
基本方針 3	SNSの活用など様々な媒体を活用した情報発信の推進		
	様々な主体（商店街、交通機関等）との連携による情報発信		
基本方針 4	多様な主体との連携による取組の充実 等		
	持続可能なマネジメントの仕組みの検討（民活導入の検討を含む）	持続可能なマネジメントの取組の推進	

「川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画（案）」 についてご意見をお寄せください

夢見ヶ崎動物公園では、動物公園を取り巻く社会状況や市民意識の変化に対応し、多様な主体との連携により地域の賑わい創出を図るため、「川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画」を策定してまいりたいと考えています。

「川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画（案）」について、皆様の御意見をお寄せください。

1 意見募集の期間

平成 30 年 2 月 1 日（木）～平成 30 年 3 月 2 日（金）

※郵送の場合は、3 月 2 日（金）の消印まで有効です。

2 意見の提出方法

住所、氏名（団体の場合は、名称及び代表者の氏名）及び連絡先（電話番号、住所又はメールアドレス）を明記の上、次のいずれかの方法によりお寄せください。

(1) 電子メール

川崎市ホームページの「パブリックコメント手続」にアクセスし、ホームページ上の案内に従って専用フォームメールをご利用ください。

(2) ファクシミリ

FAX 番号：044（588）4043

（川崎市建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園）

(3) 郵送又は持参先

〒212-0055 川崎市幸区南加瀬 1-2-1

川崎市建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園

《注意事項》

- ・ 御意見に対する個別回答はいたしません。市の考え方を整理した結果を市のホームページにて公表します。
- ・ 個人情報については、提出された御意見の内容を確認する場合に利用し、川崎市個人情報保護条例に基づき厳重に保護、管理します。
- ・ 電話や口頭での御意見の提出は御遠慮ください。

3 資料の閲覧及び配布場所

各区役所市政資料コーナー、情報プラザ（川崎市役所第3庁舎2階）、川崎市建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園、川崎市ホームページ

4 問合せ先

川崎市建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園

電話：044（588）4030 FAX 番号：044（588）4043

E-mail: 53yumemi@city.kawasaki.jp

川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画 (案)

平成 30 年 3 月

川崎市

目 次

1	計画策定の目的	1
2	計画の位置付け等	
(1)	計画の位置付け	2
(2)	計画期間と対象区域	2
3	沿革	3
4	夢見ヶ崎動物公園の周辺状況	4
5	現状	
(1)	夢見ヶ崎動物公園の概要	5
(2)	夢見ヶ崎動物公園の取組状況等	6
6	市民ニーズ	19
7	課題	23
8	目指すべき将来像	27
9	将来像を実現するための3つの基本的な視点と4つの基本方針	
(1)	3つの基本的な視点	28
(2)	4つの基本方針	29
10	区域全体の考え方	
(1)	エリア区分	30
(2)	動線計画	30
11	基本方針に基づく取組の方向性と主な内容	31
12	計画事業スケジュール	37

1 計画策定の目的

夢見ヶ崎動物公園^{注1}は、昭和25年に加瀬山^{注2}の豊かな緑を活かした公園として開設し、その後、昭和47年に動物展示を開始し、子どもから高齢者まで幅広い世代が楽しめる市内唯一の動物公園として、現在も市民や地域に愛され続けています。さらに、動物の赤ちゃん誕生などの明るい話題を提供するとともに、環境学習の実践の場や地域の多くの人々が緑に関わる活動の場となっています。

一方、新川崎駅及び鹿島田駅の周辺環境は、開園当時と比べめまぐるしい変化を遂げており、新しいまちづくりを進める上で、夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしたさらなる賑わい創出が期待されています。こうした中、平成22年度に幸区役所が中心となり、夢見ヶ崎動物公園を貴重な地域資源と捉え「夢見ヶ崎公園魅力発信基本計画」（以下「魅力発信基本計画」という。）を策定し、魅力発信基本計画により平成23年度から平成25年度まで、アクセス道や園路の整備、女性と子どものトイレの設置等を進めてきました。

夢見ヶ崎動物公園は、公園区域に社寺などがあり、園路は、一般の通行にも供されていることから、24時間、365日開放し、入園料は無料となっています。これは、動物園としての管理運営面から見ると全国的に珍しいものとなっています。こうした中、開園から40年以上が経過しているため、飼育展示施設やその他の公園施設の老朽化が進み、魅力向上や賑わい創出にあたっての支障となってきました。

平成29年6月の都市公園法の一部改正により、民間の知恵や活力を活かした公園の賑わい創出の促進が求められ、夢見ヶ崎動物公園についても魅力と質を向上させていくことが必要となっています。

本計画は、夢見ヶ崎動物公園の今後のあり方について、期待される役割を踏まえ、多くの市民や企業など多様な主体と連携し、新たな魅力と賑わいを創出していくための基本方針及び取組の方向性とその内容を示すものとして策定するものです。

注1 都市公園法上、地区公園としての夢見ヶ崎動物公園の名称は「夢見ヶ崎公園」ですが、本計画では本公園を所管する行政組織の名称である「夢見ヶ崎動物公園」の名称に統一して記載しています（既往事業名は除く。）。

注2 「加瀬山」とは、夢見ヶ崎動物公園と社寺などの民有地を含めた全体を指します。

2 計画の位置付け等

(1) 計画の位置付け

『川崎市夢見ヶ崎動物公園基本計画』は、「川崎市総合計画」及び「川崎市緑の基本計画」に即し、その他、種の保存、野生動物の保護に関する計画及び加瀬山の貴重な文化財の保全に関する計画などの関連計画とも整合を図りながら施策を推進します。

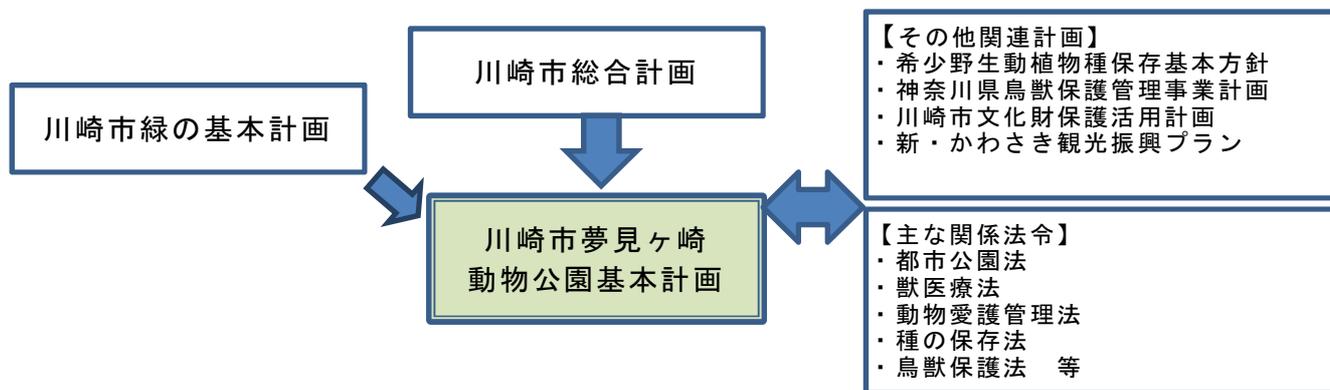


図 計画の位置付け

(2) 計画期間と対象区域

計画期間は、平成30年度から平成39年度までの10年間とします。
また、計画の対象範囲は、民有地を除く公園区域の範囲とします。

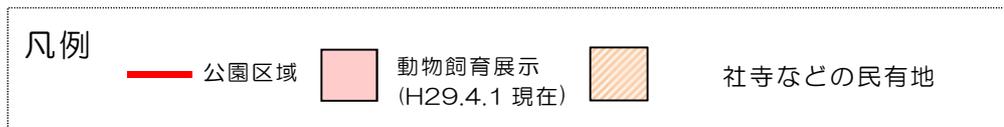
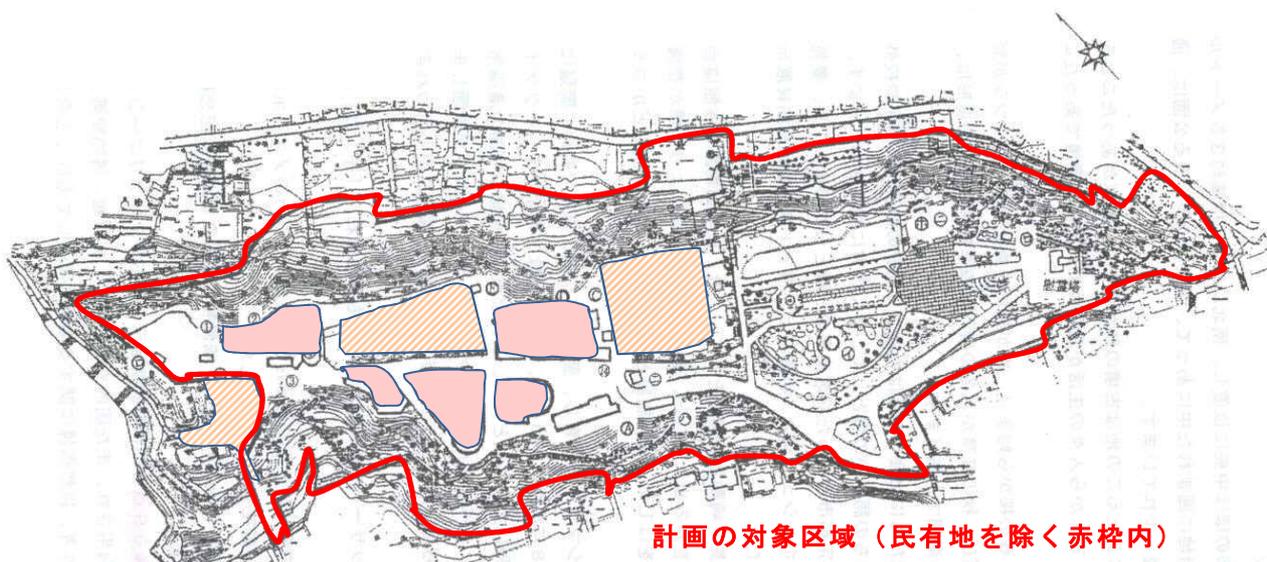


図 計画の対象範囲

3 沿革

夢見ヶ崎動物公園のある加瀬山は標高35mの小高い丘で、その南東（旧日吉出張所近辺）では縄文時代及び弥生時代の南加瀬貝塚が発見されており、加瀬山及びその周辺では、多くの古墳が築かれており、加瀬台古墳群と呼ばれています。そのうちの白山古墳からは、「三角縁神獣鏡」が出土しており、ここに葬られた豪族が大和政権から同盟の証として分け与えられたものではないかと考えられています。また、東側の白山古墳の麓からは川崎市内で唯一の国宝である「秋草文壺」が昭和17年に出土されているほか、室町時代の武将である太田道灌が、築城の場所を探しにこの地を訪れたといわれています。

川崎市では自然や歴史の豊かな加瀬山を公園として整備してきました。

表 夢見ヶ崎動物公園の沿革

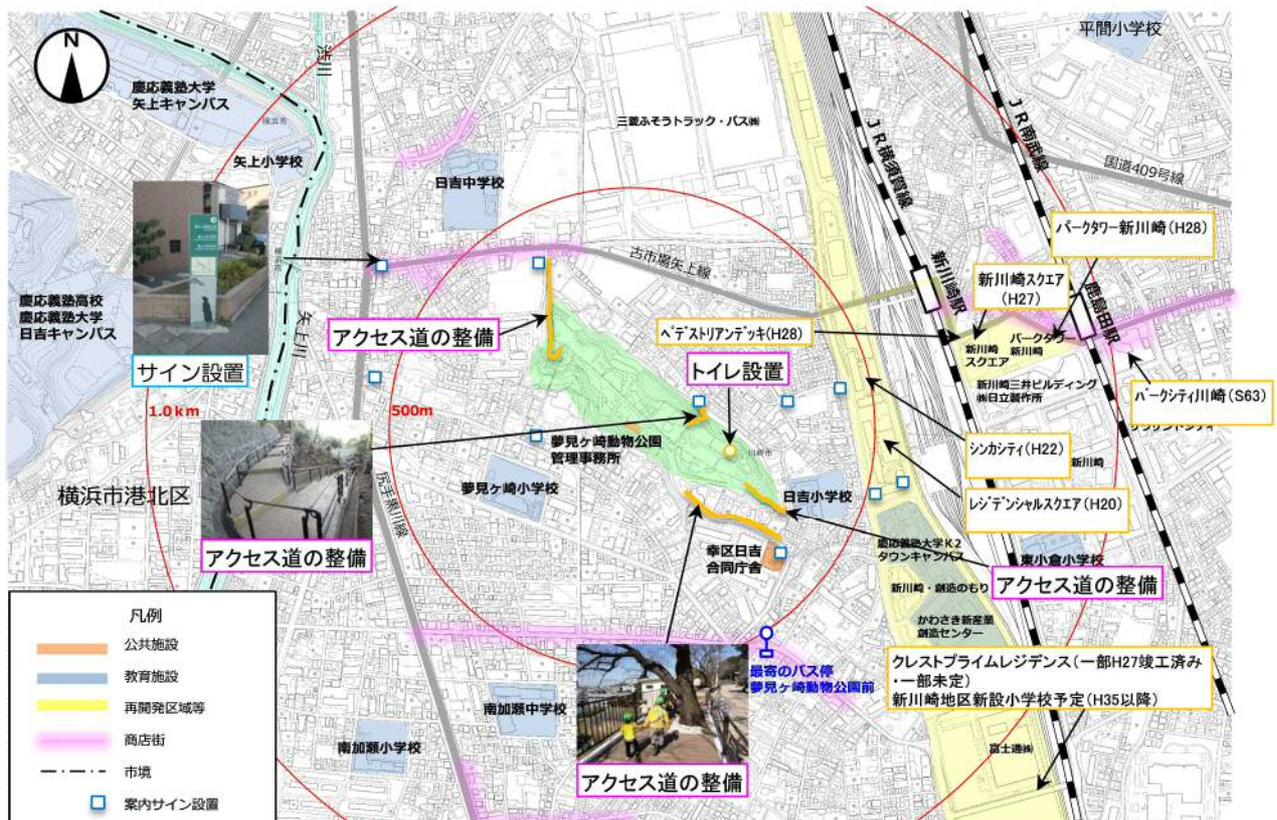
昭和25年	公園を開設する。
昭和32年	都市公園として公告する。
昭和47年	川崎市の政令指定都市移行を記念し、園内に動物コーナーを入園無料で設置する。
昭和49年	動物コーナーを改め、川崎市夢見ヶ崎動物公園として日本動物園水族館協会に加盟する。
昭和50年	全国初のヤマシマウマの繁殖成功により日本動物園水族館協会から繁殖賞を受賞する。
昭和57年	政令指定都市移行・動物園開設10周年を記念しマーコールを購入する。
昭和59年	市制60周年を記念し、セーシェル共和国からゾウガメが寄贈される。
昭和60年	市制60周年と瀋陽市との友好都市連携3周年を記念し、瀋陽市からシベリアヘラジカが寄贈される。
平成4年	友好都市連携10周年を記念し、瀋陽市からレッサーパンダが寄贈される。
平成14年	幸区市民健康の森に指定され、富士見デッキが完成する。
平成23年 ～ 平成26年	「魅力発信基本計画」に基づき、アクセス道、園路の整備及び慰霊塔前広場のトイレ、動物紹介パネルの設置等を行う。
平成29年 ～	夢見ヶ崎動物公園サポーター制度を導入する。

4 夢見ヶ崎動物公園の周辺状況

夢見ヶ崎動物公園の東側地域では、JR新鶴見操車場跡等の土地利用転換により、慶應義塾大学の新川崎タウンキャンパスやものづくり企業の進出、大規模高層住宅の集積が進んでいます。

また、夢見ヶ崎動物公園の周辺には、商店街が立地しており、日吉地区の5つの商店街で構成される日吉商店街連合会では、加瀬山ゆかりの太田道灌をモチーフにした道灌グッズや動物イラスト入りのグッズ（キーホルダー等）の制作・販売など、地域に根ざした活動が実施されています。

一方、平成23年から平成26年には、区民会議の提言を契機に地域の方々を中心に協議会を立ち上げ、夢見ヶ崎動物公園の魅力向上や地域とのつながりづくりの強化に向けて、周辺歩道のバリアフリー化や情報発信のサイン看板の設置などを実施しました。



(基図：川崎市都市計画基本図より抜粋)

図 夢見ヶ崎動物公園周辺地域の状況

周辺環境整備の内容（平成23～25年度）



歩道のバリアフリー化



動物紹介パネルや歴史サイン看板の設置



5 現状

(1) 夢見ヶ崎動物公園の概要

夢見ヶ崎動物公園は、市内唯一の動物公園として、標高35mの丘陵地に立地し、市街地に囲まれた幸区唯一のまとまった自然林を有し、植物、昆虫、野鳥など四季折々の自然を楽しむことができます。また、園内には今も7基の古墳が残るなどの歴史にも触れることができる場を提供しています。さらに幸区市民健康の森として位置付けられており、豊かな自然における活動を通して、地域住民のコミュニティ形成の場にもなっています。

夢見ヶ崎動物公園は、小型動物が中心に展示され、間近に動物を觀賞できる動物園エリア、慰霊塔や展望施設などが設置されている公園エリア及び自然林が多く残存している里山樹林エリアの3つのエリアで構成され、入園無料で動物、自然、空間及び歴史を体感できる公園としての特色があります。

公園種別	都市公園（地区公園）
管理面積	約6.6ha
展示動物	64種類309点（H29.4.1現在） （哺乳類25種166点、鳥類28種99点、爬虫類11種44点）
入園料	無料

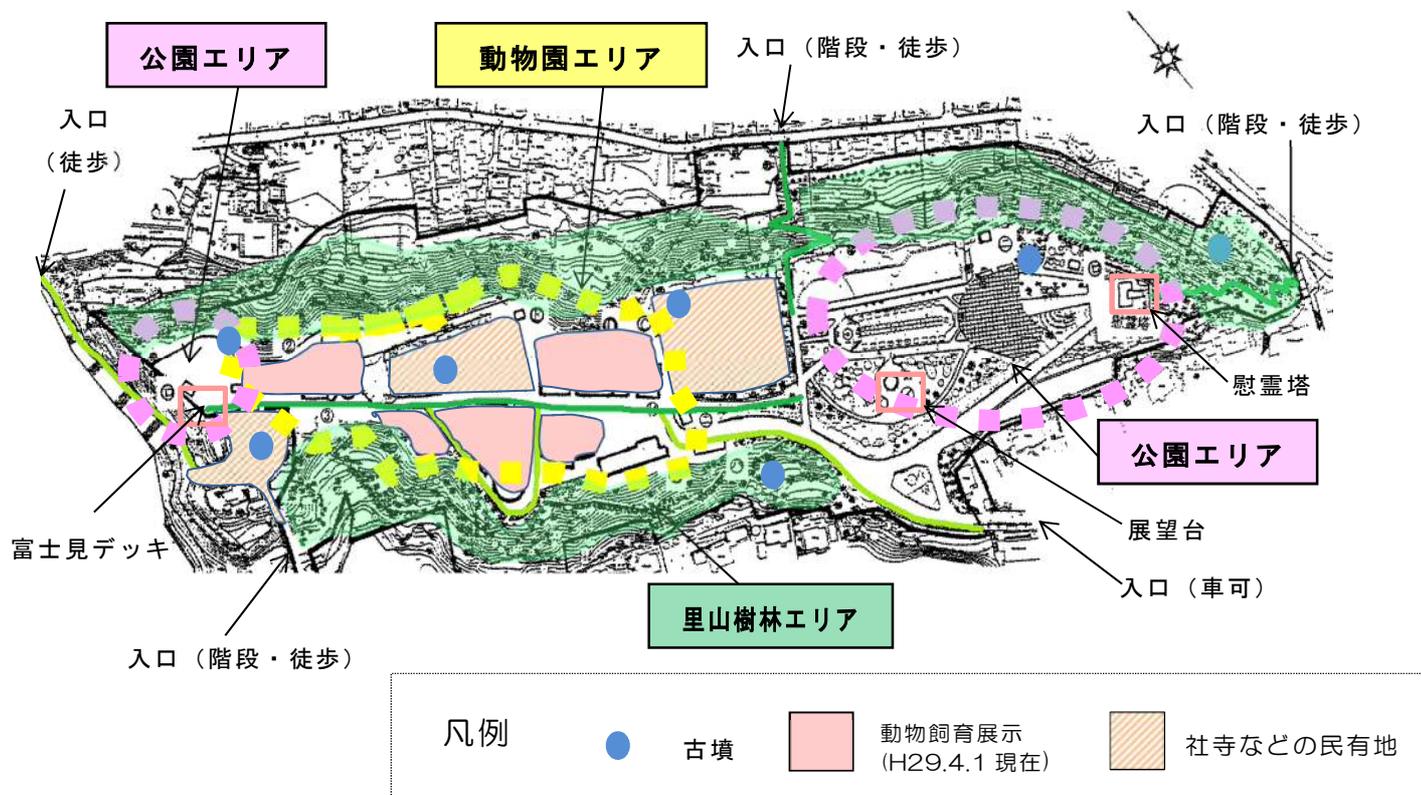


図 夢見ヶ崎動物公園の配置図

(2) 夢見ヶ崎動物公園の取組状況等

ア 動物園の役割

全国151（平成29年12月15日現在）の動物園・水族館が加盟する公益社団法人日本動物園水族館協会は、目標としている動物園水族館の役割として、教育活動の充実、動物福祉の邁進、希少動物の保護繁殖などを設定しています。夢見ヶ崎動物公園は日本動物園水族館協会が掲げる目的と下記関係法令を基に、次の（ア）～（エ）の取組を行っています。

表 関連する法令

関連法令
都市公園法
獣医療法
動物の愛護及び管理に関する法律（略称：動物愛護管理法）
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（略称：種の保存法）
鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（略称：鳥獣保護法）
その他関連法：家畜伝染病予防法、麻薬及び向精神薬取締法、銃砲刀剣類所持等取締法、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律

- (ア) 野生動物の魅力を楽しんでいただく「レクリエーション」の場合
来園者に動物の魅力を楽しむ場を提供するとともに、動物の誕生等の面白い話題を提供しています。
- (イ) 専門的な技術、知識等の修得ができる「教育・環境学習」の場合
小学生のサマースクール、中学生の職業体験、高校生のインターンシップ、専門学校・大学のカリキュラムや動物学・獣医学研修の一環としての実習を受け入れています。
- (ウ) 希少野生動物の飼育・繁殖及び野生動物の保護を行う「種の保存」・「自然保護」の場合
国内の動物園と連携して、レッサーパンダやフンボルトペンギンなどの国際希少野生動物の飼育・繁殖などを行っています。日本動物園水族館協会の構成員としてハートマンヤマシマウマ及びパラワンコクジャクの国内血統登録担当動物園として、各動物園の繁殖計画や動物園間の移動に関する調整及びハートマンヤマシマウマ国際登録園（英国マウエル動物園）への報告を行っています。
- (エ) 大学研究室と連携した「調査・研究」の場合
動物の福祉を視野に入れた科学的な裏付けのある環境エンリッチメント^{注3}

の検討や野生動物の野生復帰に向けた診療技術について大学研究室との共同研究を行っています。

注3 環境エンリッチメントとは、動物福祉の立場から、飼育動物の“幸福な暮らし”を実現するための具体的な方策や、動物が持つ野生本来の行動を発現できるような施設作りなど飼育環境を動物が自然でありのままの姿で行動することが出来る環境に向け改善すること

国際環境エンリッチメント会議
平成19年8月5～10日
シェーンブルン動物園（オーストリア・ウィーン）において、共同研究を行っている東京農工大学農学部比較心理学研究室的発表が、シルバーアワードを受賞

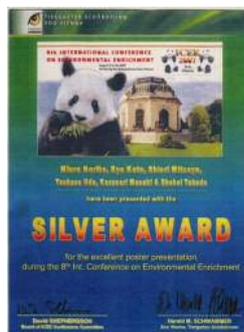


表 国際自然保護連合が定めるレッドリスト^{注4}の対象となっている飼育中の動物種

カテゴリー	動物種
絶滅危惧ⅠA類 (CR) (ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)	エリマキキツネザル、ワタボウシパンシエ、コバタン、 ホウシャガメ
絶滅危惧ⅠB類 (EN) (ⅠA類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種)	レッサーパンダ、ワオキツネザル、タイハクオウム、 クサガメ
絶滅危惧Ⅱ類 (VU) (絶滅の危険が増大している種)	クロキツネザル、ヤマシマウマ、フンボルトペンギン、 パラワンコクジャク、ショウジョウインコ、オオバタン、ヨウム、 キエリボウシインコ、アルダブラゾウガメ、ケヅメリクガメ、 ホルスフィールドリクガメ

注4 レッドリストとは、絶滅の危機に瀕している世界の野生生物のリストで、国際自然保護連合が作成しています。自然保護の優先順位を決定する指標として様々なカテゴリーがあり、動物ごとに分類されています。

イ 夢見ヶ崎動物公園の取組の現状

(ア) 飼育動物の展示

夢見ヶ崎動物公園では、立地条件により大型動物が飼育できないため、レッサーパンダやキツネザル、インコなどの比較的小型で親しみやすい動物を中心に展示しています。

平成29年度4月1日現在、レッサーパンダやシマウマなどの哺乳類が25種166点、ペンギンやキジなど鳥類が28種99点、クサガメやリクガメなどの爬虫類が11種44点の計64種309点の動物を飼育展示しており、間近で観察することができます。

一方、飼育している一部の動物種においては、高齢化や近親交配が進み、今後の繁殖が困難と考えられるものや、家畜伝染病の関係から海外からの輸入が困難な動物種もあり、希少野生動物の保存及び展示を継続していく上で動物の繁殖が課題となってきました。



平成27年6月に生まれた
双子のレッサーパンダ



平成26年11月に導入したラマ



図 飼育動物展示図

表 主な飼育動物

哺乳類（25種：166点）

（平成29年4月1日現在）

目	科	動物名	分布
霊長目	マーモセット科	ワタボウシパンシェ	コロンビア北西部
	キツネザル科	ワオキツネザル	マダガスカル島
		エリマキキツネザル	
		ブラウンキツネザル	
		クロキツネザル	
	オマキザル科	ボリビアリスザル	南アメリカ北部
フサオマキザル		南アメリカ	
齧歯目	リス科	オグロプレーリードッグ	北アメリカ
食肉目	アライグマ科	アライグマ	北アメリカ北西部
	レッサーパンダ科	シセンレッサーパンダ	中国西南部
	イタチ科	ニッポンアナグマ	日本
	マングース科	ミーアキャット	アフリカ
奇蹄目	ウマ科	ハートマンヤマシマウマ	南西アフリカ
		ロバ	（家畜種）
偶蹄目	ラクダ科	ラマ	アンデス地方
	ウシ科	マーコール	ヒマラヤ

鳥類（28種：99点）

（平成29年4月1日現在）

目	科	動物名	分布
ペンギン目	ペンギン科	フンボルトペンギン	南アメリカ西部海岸
フラミンゴ目	フラミンゴ科	チリーフラミンゴ	南アメリカ西部
キジ目	ハウカンチョウ科	アカオヒメシャクケイ	南アメリカ北部
	キジ科	インドクジャク	インド
		パラワンコクジャク	フィリピン パラワン
		ハイイロコクジャク	ヒマラヤ、中国南部
オウム目	インコ科	ベニコングウインコ	南アメリカ北部
	オウム科	コバタン	インドネシア

爬虫類（11種：44点）

（平成29年4月1日現在）

目	科	動物名	分布
カメ目	リクガメ科	アルダブラゾウガメ	アルダブラ諸島 セイシェル諸島
		ハウシャガメ	マダガスカル

(イ) 種の保存・負傷野生動物の保護

国内の動物園と連携して、レッサーパンダなどの国際希少野生動物の飼育・繁殖などを行うとともに、2種類の動物の国内血統登録担当動物園としての役割を果たしています。また、動物園の役割の一つである「種の保存」・「自然保護」事業の一環として、希少種に限らず、負傷野生動物の受け入れを行っています。

神奈川県内における負傷野生動物の保護については、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律（第4条）」に基づき、神奈川県が「鳥獣保護管理事業計画」を策定しており、当該計画において、夢見ヶ崎動物公園は、地域の獣医師会やNPO等と連携して、傷病鳥獣の保護受け入れを実施するよう位置付けられています。それに加え、保護動物の野生復帰の可能性を高めるために大学と協働で野生動物診療の研究を進めています。

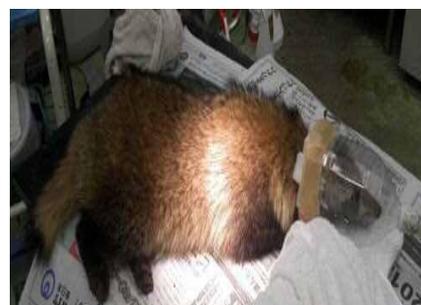
夢見ヶ崎動物公園においては、近年、哺乳類と鳥類を合わせて年間約100件を越える負傷野生動物の保護受け入れを行っております。近年ではNPO法人野生動物救護獣医師会神奈川支部から派遣される野生動物リハビリテーターとの連携により保護業務を行っていますが、年々受入れ件数が増加傾向にある一方で、派遣される野生動物リハビリテーターの人数には限りがある状況にあります。



保護されたフクロウのヒナの給餌



衰弱により保護され、治療後放鳥されたオオタカ



交通事故で運び込まれたタヌキの麻酔下での手術

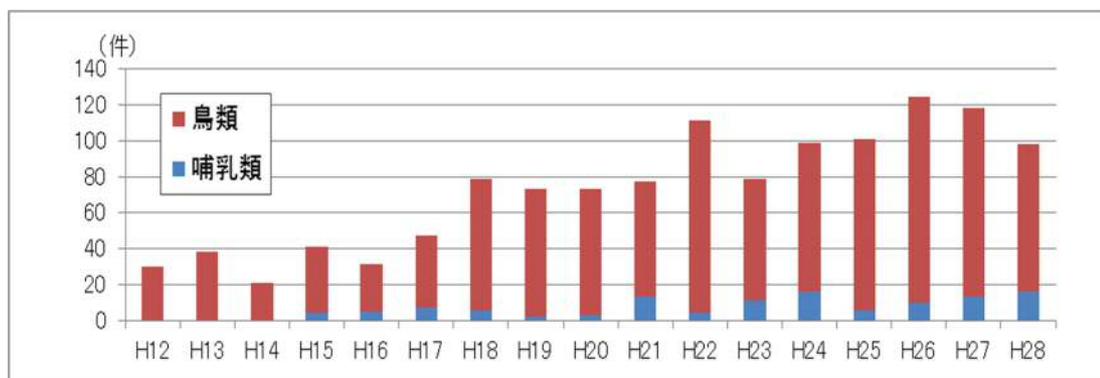


図 傷病野生動物の保護受入数の推移

(ウ) イベント企画と教育・環境学習

現在、夢見ヶ崎動物公園では、動物への理解や啓発を目的に各種イベントや教育・環境学習の取組を行うとともに、来園者サービスの向上を図っています。

現状では「動物園まつり」や「飼育の日」等の年に数回のイベントでの限られた取組となっており、動物に関する体験や体感を演出する取組とともに、加瀬山全体の特色（樹林地などの自然環境、歴史・文化、地形など）を活かしたイベントやプログラムの提供が不足しています。平成27年度のアンケート調査結果においては、来園者から餌やり体験や動物とのふれあいを希望する意見が多数ありました。

また、サマースクール、職業体験、飼育実習の受け入れ及び学校での出前授業などの教育・環境学習に取り組んでいますが、専門学校や大学からのすべての要請に対しては対応できていない状況です。

表 イベントの実施状況

名 称	頻度	開催時期
春・秋の動物園まつり ・バックヤードツアー、ガイドツアー等を実施	年2回	3月、11月
飼育の日イベント ・ふれあいイベント等の実施	年1回	4月19日前後の休日
動物たちへの年賀状コンクール	年1回	1月

表 教育・環境学習実施状況

名 称	頻度	開催時期
サマースクール ・小学校の児童を受け入れ、飼育体験を実施	年1回	夏休み
中学・高校生 ・職場体験 大学・専門学校生 ・獣医実習	年20～30件 年10～20人	年間
来園者レクチャー ・来園した小・中学校生徒への動物園の紹介を実施	年10回程度	小・中学校遠足時等



動物園まつり(バックヤードツアー)



動物園まつり(動物ガイドツアー)



サマースクール(獣舎清掃実習)



サマースクール(餌づくり実習)

(エ) 多様な主体との協働推進

協働の取組については、これまで、地元町内会、商店街及びボランティア団体等との連携によって、園内の植栽等の日常的な維持管理やイベントでの飲食の出店等、夢見ヶ崎動物公園の魅力向上を行ってきました。こうした地域による活動については、高齢化等により担い手が不足しているなどの課題もあり、今後、多様な主体と連携して持続可能な協働の取組を推進していく必要があります。

表 協働の取組内容

主体	取組内容
市民・ボランティア団体	<p>● 日常的な園内の樹木の剪定、花壇の整備など</p> <p>【ボランティア団体の活動事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木剪定等の活動（月3回の活動日及び随時） ・ 環境フェア等での活動発表、パネル展示の開催 ・ 動物園まつりでの竹遊具の体験や工作体験の開催 ・ 「花と緑のフェア」への参加 ・ 竹の子掘り

主体	取組内容
商店街	<ul style="list-style-type: none"> ●動物イラスト入りオリジナルグッズの作成 ●動物園まつりでのオリジナルグッズの販売 ●動物園まつりでの飲食関係の出店 ●「ゆめみにゅーす」の掲示
町内会	<ul style="list-style-type: none"> ●動物園まつりでの飲食関係の出店 ●「ゆめみにゅーす」の掲示
サポーター	<ul style="list-style-type: none"> ●動物園まつりでの総合受付、餌やり体験整理券配布、バックヤードツアー補助など
NPO	<ul style="list-style-type: none"> ●野生動物リハビリテーターの派遣による傷病野生鳥獣の保護業務の支援
大学	<ul style="list-style-type: none"> ●環境エンリッチメントや野生動物の診断・治療に関する共同研究



ボランティア団体による公園維持管理



地元商店街連合会作成のオリジナルグッズ



個人ボランティアによる情報発信



野生動物リハビリテーターによる保護動物の世話
(平成 29 年 11 月朝日新聞掲載)

夢見ヶ崎動物公園サポーター

夢見ヶ崎動物公園では、これまで地元町内会や商店街等とのイベントの開催や情報発信、オリジナルグッズの作成などを進めるとともに、ボランティアによる清掃活動や花壇の手入れなど、地域やボランティア等に支えられながら取組を進めてきました。

しかし、こうした協働の取組に対して、一体的な受け入れ制度や仕組みがなく、活動の機会や取組内容が限られていました。

そこで、これまでの協働の取組を進めながら、民間企業など、多様な主体と連携し、夢見ヶ崎動物公園の賑わい創出と魅力の向上を図るために、平成29年に、協働のプラットフォームとして「夢見ヶ崎動物公園サポーター制度」を導入しました。

現在、サポーターからの寄附による支援のほか、イベントの支援、園内の植栽、施設等の維持管理に関わる支援などがあります。



サポーター制度のキックオフイベント「ゆめサポ」フェスタの開催状況
(平成29年8月)



サポーターの活動例

(ホ) 情報発信

情報発信については、現在、夢見ヶ崎動物公園の情報は市ホームページ、市政だより及び夢見ヶ崎動物公園の季刊誌「ゆめみにゆーす」などを通じ実施していますが、多摩区や麻生区などの市内北部地域においては夢見ヶ崎動物公園の認知度が低いなど、情報発信力が不足しています。

<現在の取組内容>

- a 市ホームページ、SNS、各種民間情報誌及びWEBサイトへの情報の掲載
- b 園の広報季刊誌「ゆめみにゆーす」の作成・配布
- c イベント開催に関する案内や動物の赤ちゃん誕生等の話題などの報道機関への情報提供
- d 個人ボランティアによるインターネットを活用した夢見ヶ崎動物公園の情報発信



広報季刊誌「ゆめみにゆーす」

ウ 来園者数等

夢見ヶ崎動物公園の平均年間来園者数は、ピーク時（昭和63年）においては60万人を超えていましたが、近年は25～30万人程度で推移しています。

夢見ヶ崎動物公園の月別来園者数としては、1月の神社、お寺等への初詣、花見など春の行楽シーズン（3～5月）及び秋の行楽シーズン（9～11月）並びに春・秋の動物園まつりなどのイベント行事が開催される時期に来園者数が増加する傾向にあります。

また、平成27年度に実施した夢見ヶ崎動物公園来園者アンケート（P20）では、来園者の約70%は川崎市民、約30%は市外からの来園者となっており、その年齢構成においては30歳～49歳までが半数以上を占めています。また、半数以上の方が乳児、幼児及び児童を連れた来園となっています。

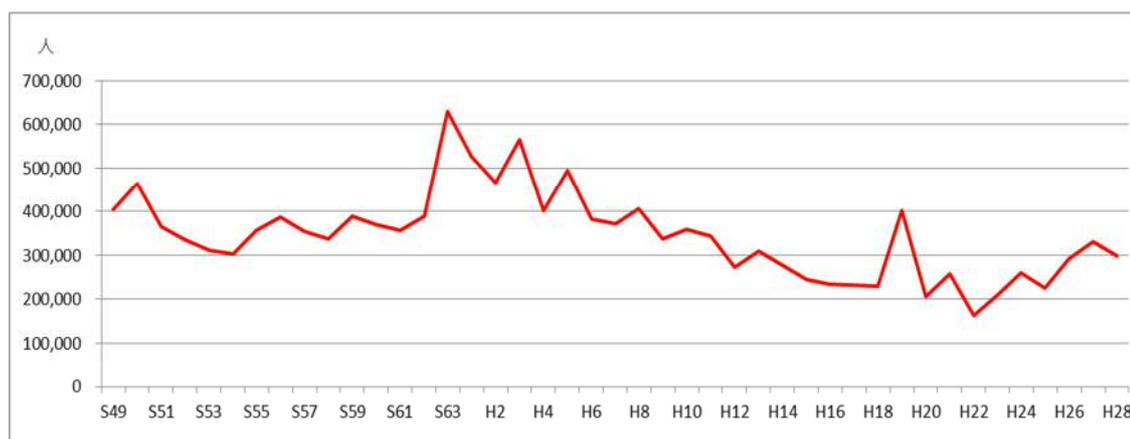


図 年度別来園者数

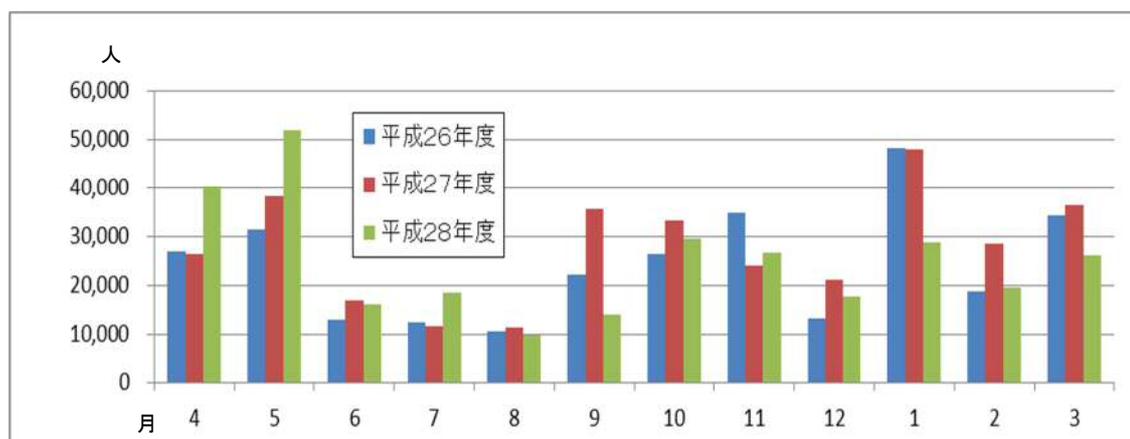


図 月別来園者数

エ 管理運営状況

(ア) 入園料及び収支状況等

夢見ヶ崎動物公園内には社寺等の民有地や5箇所の出入り口があり、園内は、地域住民の通勤・通学に利用されている状況などがあることから、動物園エリアを閉鎖して管理することが難しく、入園無料で運営してきた経緯があります。

また、地元町内会、地元商店街、ボランティア、NPO、サポーター等とも協働の取組を進めながら運営しています。

過去5年間（平成23～27年）の平均収入額は、撮影の許可使用料などにより約160千円、平均支出額は約130,000千円で推移しています。

(イ) 施設管理の状況

夢見ヶ崎動物公園は、広場や樹林地を有しており、これらを含めて維持管理を行っておりますが、昭和49年の開園以来40年以上が経過し、施設の老朽化の進行が見受けられ、部分補修や樹木等の剪定を行いながら施設の管理を行っています。

また、展示・飼育施設等は、清掃や手入れ・補修などの維持管理を続けていますが、建築後30年以上が経過している施設が多く存在し、展示・飼育施設や公園施設の全体的な老朽化が進行しています。施設の老朽化や給排水施設の不具合などにより、外観の劣化だけでなく、展示・飼育施設の開閉作業、清掃作業及び動物の健康管理における支障や動物の逸走のおそれも生じてきています

園内においては、管理事務所前及び富士見デッキ側の広場は舗装されておらず、雨天時の地面のぬかるみにより、ベビーカー等の車輪が泥に取られるなど、ベビーカーや車椅子利用者には移動しにくい状態となっています。

夢見ヶ崎動物公園には、休憩施設がなく、夏季や冬季及び雨天時は外気温や天候の影響を受け、利用しにくいなどの現状があります。さらに、授乳室がなく、管理事務所内のレクチャールームを一時的に提供しているなどの設備上の課題もあります

常設の来園者用駐車場は、一般車25台の収容が可能で、無料で運営していますが、春・秋の行楽シーズンの休日には、入口ロータリーの園路沿いにも臨時に駐車スペースを確保しています。

(ウ) 職員の状況

職員数は、平成29年4月1日現在、獣医職5名、飼育職1名、業務職（飼育）4名、事務職1名、業務職（管理）1名及び非常勤職員4名の計16名の職員で運営しています。

動物公園の職員は、動物飼育に関わる専門性の高い情報の収集や蓄積が求められており、日本動物園水族館協会主催の研究会などへ参加や大学・専門学校との情報交換をしていますが、十分な機会や時間が確保されているとは言い難い状況にあり、定年退職等に伴う技術の継承などの問題も含め、専門性の高い業務に対して人材育成を行っていくことが重要なこととなってきました。

6 市民ニーズ

市民ニーズを把握するために、平成27年度に来園者及びインターネット等によるアンケート調査を行いました。

また、平成29年12月3日の第31回区民車座集会(幸区役所日吉合同庁舎)において、「夢見ヶ崎動物公園(加瀬山)の新たな魅力と賑わいの創出に向けて」をテーマに、市長と地域で活動する団体や近隣住民の皆さんとの意見交換を行いました。

表 アンケート調査の概要

1) 目的	本計画をとりまとめるにあたり、市民の意向等を調査、反映させるため。
2) 実施期間	平成28年2月26日～3月21日
3) 実施方法	①【来園者アンケート】 ・夢見ヶ崎動物公園への来園者に対してアンケート調査を実施した。 ②【市民アンケート】 ・インターネットによるアンケート調査を実施した。 ・区役所、市民館及び図書館にアンケート調査及び多摩川水辺の楽校シンポジウム等のイベント参加者に対してアンケート調査を実施した。
4) 調査項目	【回答者の属性】性別、年齢及び居住地 【夢見ヶ崎動物公園に関する項目】 来園の有無、来園回数、来園方法、夢見ヶ崎動物公園の良いところ、夢見ヶ崎動物公園で充実してもらいたい事項、夢見ヶ崎動物公園で今後実施してもらいたい事項、展示及び公園の満足度等
5) 回答数	617

[アンケート調査結果の概要]

○来園回数

・3回以上来園されている方の割合が全体の70%を超えていました。

○夢見ヶ崎動物公園の良いところ

・良いところは、「入園無料」(88%)、「広場や遊び場がある」(47%)、「年中無休」(46%)が多くありました。

○設置・充実してほしい施設

・「売店・自販機」(45%)、「休憩室・授乳室」(37%)の飲食や施設の要望が多くありました。

○夢見ヶ崎動物公園でやってほしいこと

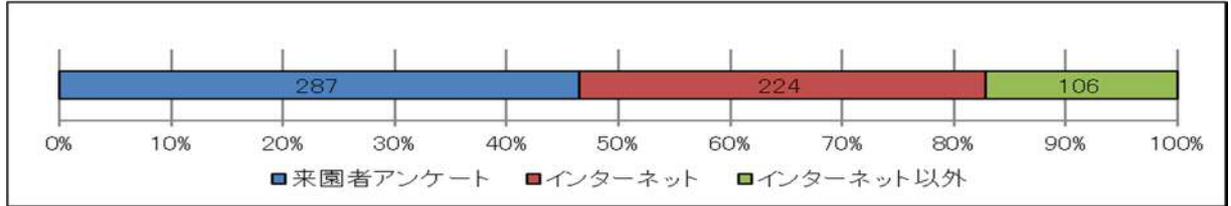
・「動物にさわる(ふれあい)」(58%)、「えさやり体験」(51%)等の動物とのふれあいの要望が最も多く、次に「バックヤードツアー」、「動物ガイドツアー」などの要望が多くありました。

アンケート調査結果

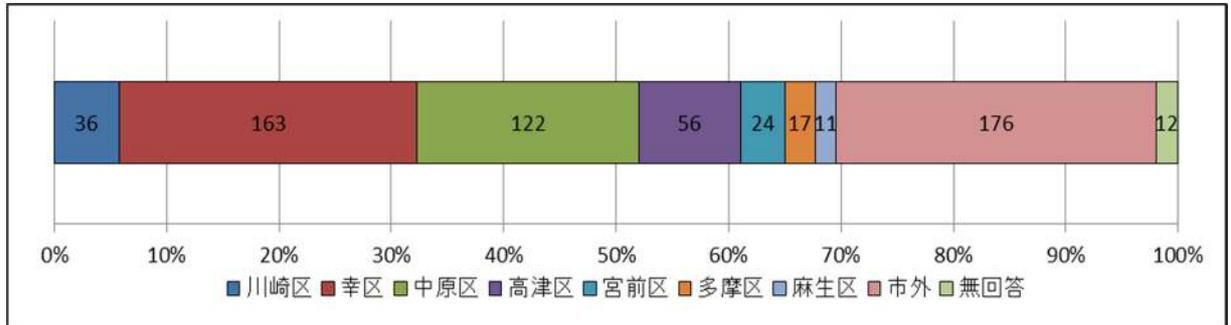
■ 回答数

() 内は%

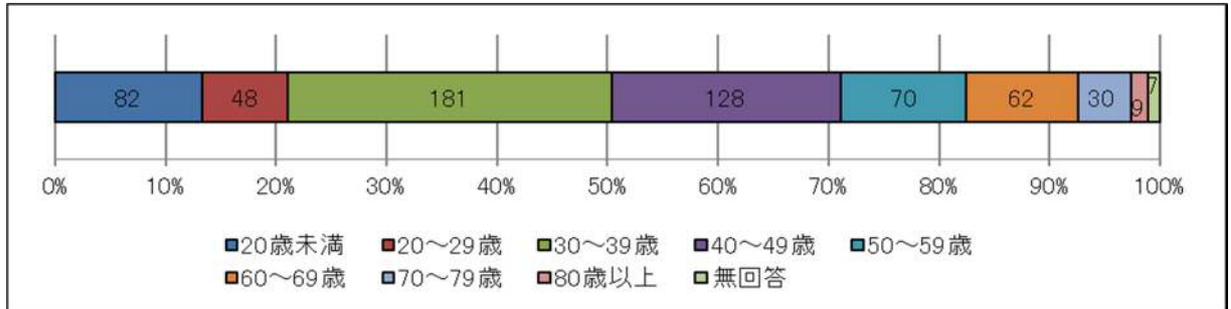
合 計	来園者アンケート	市民アンケート	
		インターネット	インターネット以外
617 (100)	287 (46.5)	224 (36.3)	106 (17.2)



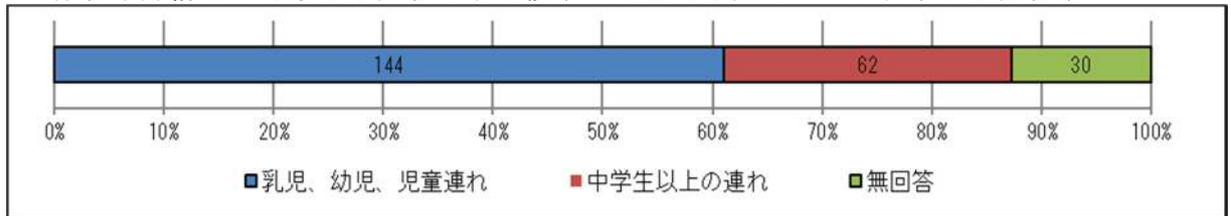
■ 回答者居住地 (回答者数 617 人、数字は回答数)



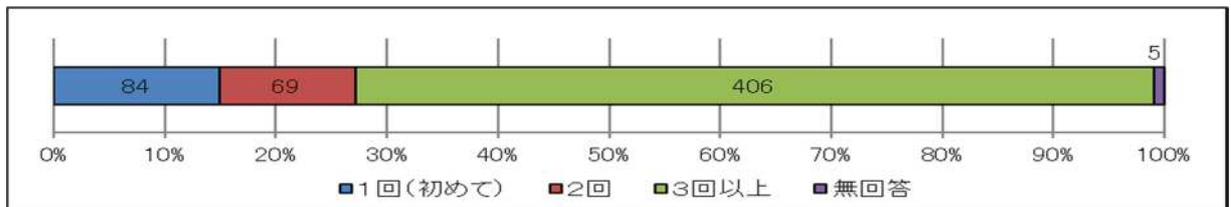
■ 回答者年齢構成 (回答者数 617 人、数字は回答数)



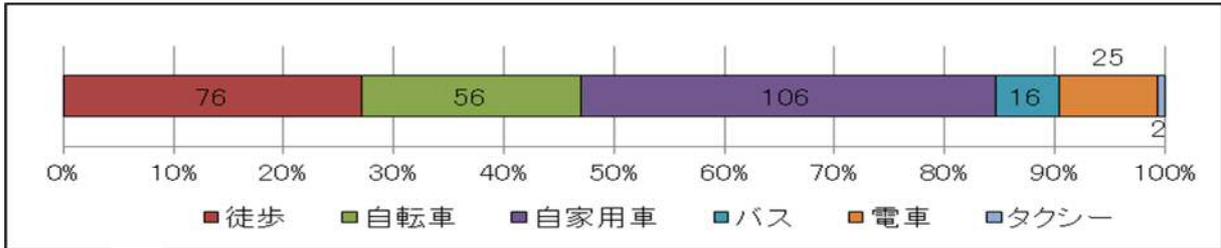
■ 同伴者年齢構成 (対象は来園者のうち複数人以上で来園の 236 人、数字は回答数)



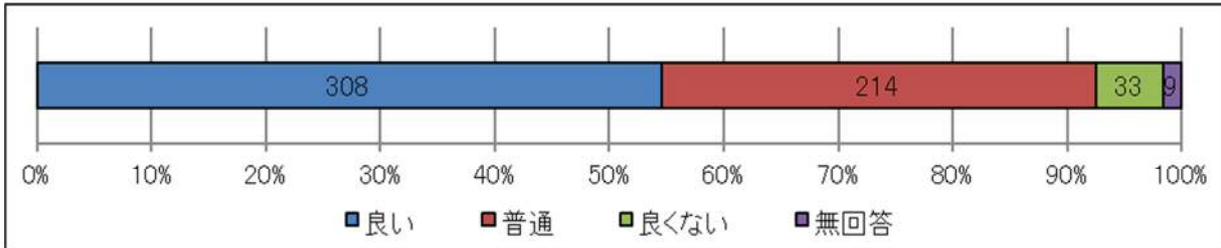
■ 来園回数 (対象は来園者及び市民アンケートで来園した事がある者564名、数字は回答数)



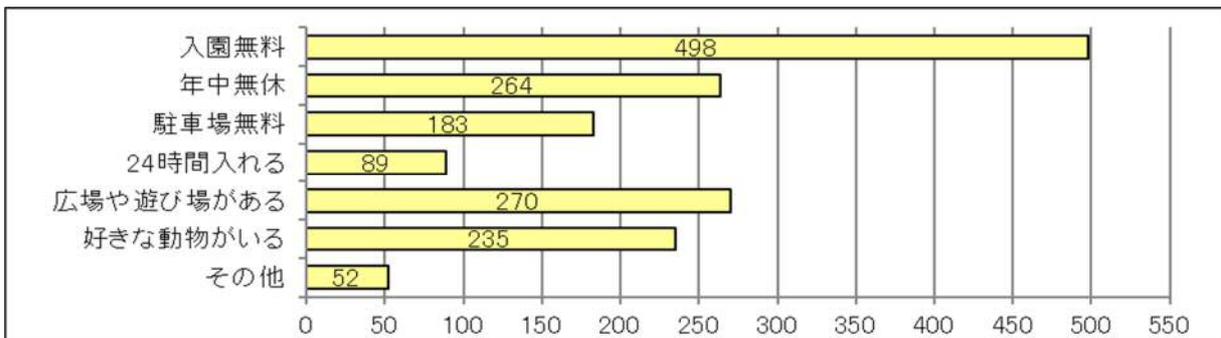
■ 来園方法（対象は来園者のうち無回答6名を除く281名、数字は回答数）



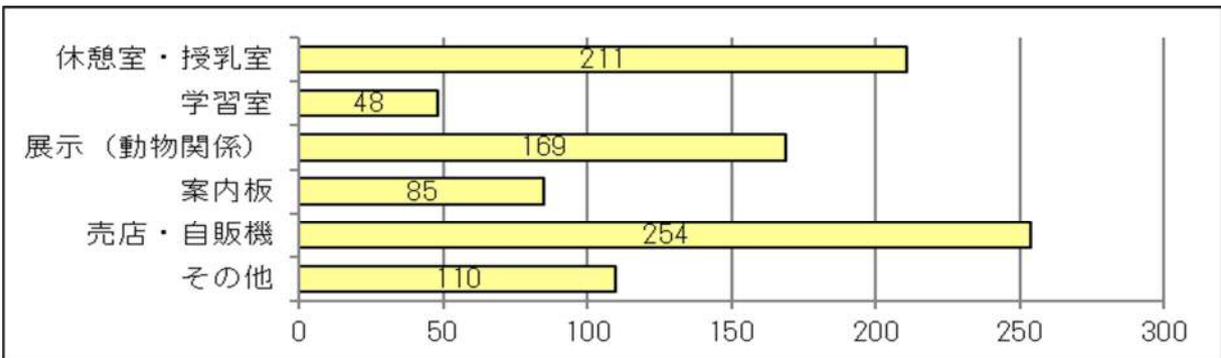
■ 夢見ヶ崎動物公園の印象について（対象は来園者及び市民アンケートで来園した事がある者564名、数字は回答数）



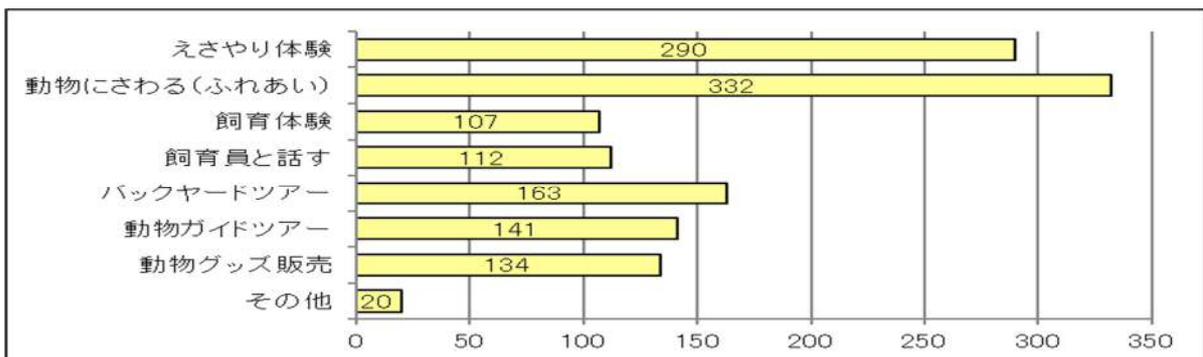
■ 夢見ヶ崎動物公園の良いところ（対象は564名、数字は回答数、複数回答可）



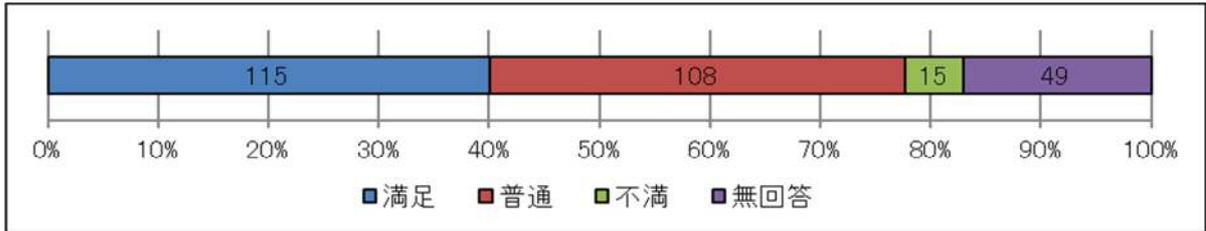
■ 設置・充実してほしい施設（対象は564名、数字は回答数、複数回答可）



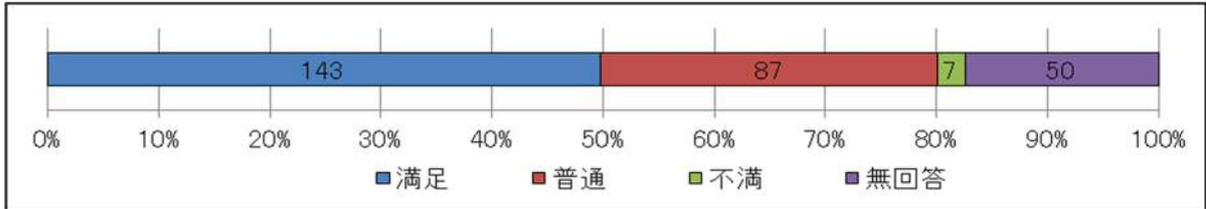
■ 夢見ヶ崎動物公園でやってほしいこと（対象は564名、数字は回答数、複数回答可）



■ 展示動物の満足度について（対象者は来園者287名）



■ 公園全体の満足度について（対象者は来園者287名）



■ 夢見ヶ崎動物公園はどのような場であってほしいか（対象は564名、数字は回答数、複数回答可）

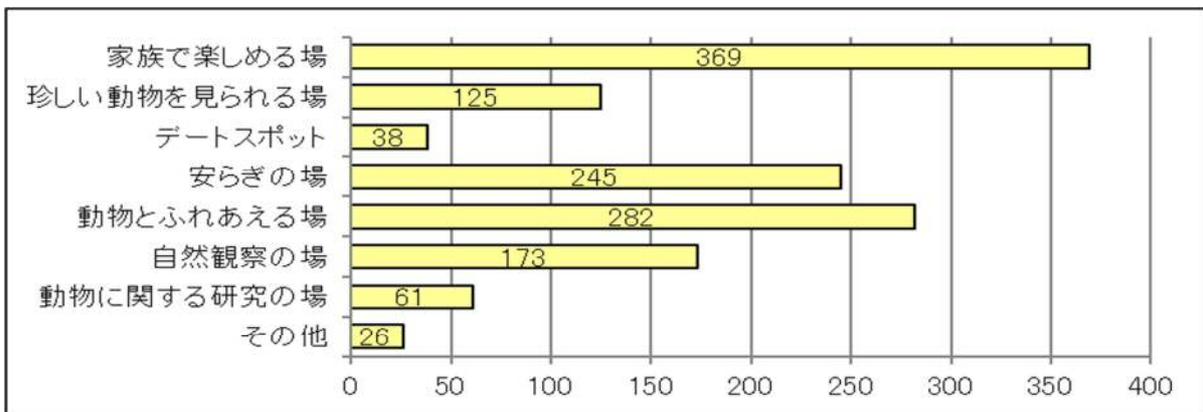


表 第 3 1 回区民車座集会の概要

1) 開催日	平成29年12月3日(日)
2) 開催場所	幸区役所日吉出張所 2階会議室
3) 参加者	28名(地域で活動する団体や近隣住民の方)
4) 内容	「夢見ヶ崎動物公園(加瀬山)の新たな魅力と賑わいの創出に向けて」をテーマとして、ワークショップおよび意見交換を実施
5) 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・カフェやマルシェなどの売店や飲食ができる場所があったほうがよい ・加瀬山の社寺や古墳などの歴史的、文化的な背景を、地域の財産として、一体的にPRできるのではないかと (動物の御朱印帳やお守りの販売、フォトスポットの設置など) ・加瀬山の起伏と周辺施設を活かしたハイキングやトレイルのコースが設定できるのではないかと ・高齢者などのアクセス性の改善が必要 ・間伐など周辺の樹木の適正な管理により優良な里山として保全することが大切 ・夢見ヶ崎で活動するたくさんの団体や個人、企業などが力を合わせる事が重要



意見交換の様子

7 課題

(1) 展示・飼育施設等の老朽化や動物展示における魅力の低下

近年では、動物本来の行動や生活の質を高めるための工夫である環境エンリッチメントに配慮することにより、動物へのストレス軽減や展示の魅力向上を図る取組が各地の動物園で進められています。

夢見ヶ崎動物公園においても、展示・飼育施設の構造面で、マーコール舎やレッサーパンダ舎などは放飼場に擬岩や樹木等を置き、動物本来の行動を引き出すような仕掛けを施していますが、築30年以上経過した展示・飼育施設が多く、全体的な老朽化が進行しています。また、コンクリートと壁（檻）の旧来型の獣舎も現存し、動物本来の行動の多様性を引き出せないなど、動物展示における魅力が低下していることから今後は、来園者に動物の魅力を十分に伝えることができる展示への取組が必要となっています。また、展示動物の高齢化や近親交配の進行により、繁殖が困難な動物種があり、将来的に展示の継続ができなくなるおそれもあり、希少種を繁殖・保存していくための取組が必要となります。

表 動物飼育舎の設置からの経過年数と現状（平成29年4月1日現在）

施設名称	設置からの経過年数	現状
リス舎	45	老朽化が進み、外装に傷みが出ている
シマウマ舎	40	老朽化が進み、外装に傷みが出ている
シカ舎・クジャク舎	38	環境エンリッチメントに配慮された構造となっていない
ラマ舎	34	コンクリート製水飲み場の劣化
サル舎	34	環境エンリッチメントに配慮された構造となっていない 老朽化が進み、外装に傷みが出ている ナイトルーム内のシャッター等の設備の劣化
小動物舎	31	密閉ができず保温施設も老朽化し効率が悪い
ニワトリ舎	31	
マーコール舎	30	ナイトルームの床コンクリートの劣化
ゾウガメ舎	30	空調施設の老朽化により、冷暖房共に効率が悪い
小獣舎	29	環境エンリッチメントに配慮された構造となっていない
インコ舎	28	密閉ができず保温施設も老朽化し効率が悪い
レッサーパンダ舎	25	天井の防水シートの劣化
パンシェ・マーモセット舎	23	空調施設の老朽化により、暖房効率が悪い
ペンギン舎	21	設備（水ろ過装置）の劣化
フラミンゴ舎	16	一部施設の劣化（床など）
キジ舎	16	空調施設が不足
レムール舎	14	天井の漁網が耐久年数10年を超え、破損箇所を一時的に修復



旧来型の獣舎（サル舎）



小動物舎の囲いの破損

(2) 来園者が快適に利用することができる利便施設等の不足

園内には未舗装部が多くベビーカーを利用する方や車椅子の方にとっては、移動時に支障が出たり、また給湯設備、休憩施設及び授乳室などの利便施設の不足から、来園者が快適に園内で過ごせる状況とはなっていません。市民ニーズも、休憩施設や授乳室などの利便施設の設置を求めており、来園者が快適に利用することができる利便施設の整備が必要です。

また、樹木の剪定に関しても定期的を実施することができていない現状があることから一部の樹木では高木化しているものもあり、適切な維持管理が必要です。



未舗装部の根上り

(3) 夢見ヶ崎動物公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの不足

動物とのふれあいができるプログラムは、定期的な動物園まつりなどのイベント時に実施していますが、加瀬山の自然や歴史を体験・体感できるプログラムの提供と併せて回数が限られている状況にあります。

動物園の役割であるレクリエーション施設として、また、教育・環境学習の場として、夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしたイベントやプログラムを提供することが求められており、提供していくためのシステムづくりなどを含めた検討と取組が求められています。

(4) 飲食機能及び物販サービスの不足

現在、夢見ヶ崎動物公園内ではイベント時を除くと、自動販売機以外の飲食の提供はありません。また、以前は公益財団法人川崎市公園緑地協会が売店を運営していましたが、現在は閉鎖しています。

売店等の飲食機能の充実については来園者からの要望も多く、今後展開されるイベントやプログラムにより、来園者が長時間滞在し、夢見ヶ崎動物公園を十分に楽しんでもいただくためには、飲食機能及び物販サービスの充実が必要となります。



閉鎖している売店

(5) 多様な主体との連携の充実と持続性の確保

夢見ヶ崎動物公園では、これまでも地域のボランティア団体や商店街と連携した取組を進めてきましたが、連携する地域及び主体が限られているとともに、一部のボランティア団体の担い手が不足しつつあるといった課題があります。今後、更なる魅力向上や賑わい創出に向けて、サポーター制度の充実や地域の様々な企業や団体等との連携も視野に入れた取組を推進し、協働の輪をより大きくする必要があります。

協働の輪をより大きく、充実させていくことにより、様々なプログラムやイベントの充実、公園の利用促進及び賑わいの創出の好循環を生み出し、そのような中で各主体が互いに連携し、協働の持続性と主体の持続性を確保していくような仕組みづくりを行っていく必要があります。

(6) 魅力的な情報の提供や多様な主体との連携による効果的な情報発信力の不足

来園者数は、昭和63年の60万人をピークに、現在30万人程度となっており、ピーク時に比較し、約半数となっています。近年、来園者数を増やしてきた各地の動物園は、展示している動物の魅力や来園者向けの多様なイベントに関する情報を様々な手段で発信しています。

夢見ヶ崎動物公園では、これまでのホームページ等での発信に加え、平成29年11月からSNS（Facebook）を利用した新たな情報発信を開始しました

が、動物の個体をより知ってもらい、より多くの市民が愛着を深められるような魅力的な情報発信が十分と言える状況ではありません。また、魅力ある情報を様々なツールや多様な主体との連携により効果的に発信していく取組が不足しています。

(7) 調査・研究における最新の知識・技術の取得と活用の不足

野生動物に関する調査・研究においては、大学と環境エンリッチメントや野生動物の診療技術の向上に向けた共同研究を実施していますが、現状では1校のみにとどまっております。

動物園の役割である野生動物の調査・研究を充実させていくことは、飼育や診療技術の向上に繋がることから、今後は、他の大学や専門学校との連携による環境エンリッチメントや野生動物診療に係る共同研究を通じて、取組の向上に向けた最新の知識と技術の取得と活用が必要です。

(8) 人材育成や新たな財源確保等を含めた持続可能なマネジメントの確立

飼育業務は多くの種類の野生動物を扱う専門性の高い業務であることから、専門的な研修会や研究会の参加により、新たな知識や技術を習得していくことが必要ですが、職員の習得機会が不足しております。また、各地の動物園では来園者サービスの向上を図るための接遇等に関する研修会を実施しており、飼育業務の専門性や高いホスピタリティを兼ね備えた人材育成が必要となっております。

また、夢見ヶ崎動物公園の特色の一つである入園無料を継続しながら、持続的な管理運営を進めるうえで、多様な主体との連携を視野に入れながら、入園料以外の財源の確保や、専門的な知識や技術に基づく飼育業務を継続していくための仕組みが構築されていないため、今後は持続可能なマネジメントのしくみを構築し取組を推進する必要があります。

8 目指すべき将来像

夢見ヶ崎動物公園は、3つのエリアで構成され、入園無料で、動物、自然及び歴史的価値を有する公園という特色があります。こうした特色を活かしながら、夢見ヶ崎動物公園の現状、課題等を踏まえ、目指すべき将来像とその実現に向けた基本コンセプトを設定します。

【目指すべき将来像】

わくわく、ふれあい、みんなでつくる動物公園

【基本コンセプト】

夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしながら、地域コミュニティの核として、わくわくでき、いきものとふれあえる場を、多様な主体が活用することにより、魅力と賑わいのある持続可能な動物公園を目指します。

本計画では、夢見ヶ崎動物公園を貴重な資源として捉え、レクリエーションや教育・環境学習など地域に幅広く貢献する重要な市民利用の施設として位置付けます。こうした機能を十分に発揮するためには、夢見ヶ崎動物公園の特色やこれまでの取組を活かし、多様な主体と連携した動物公園づくりを進めていくことが重要です。

飼育動物については、現在の展示動物を維持しながら、ふれあえる動物を飼育していきます。

今後は、幅広い世代・分野の方々がつながり、いきものとのふれあいを通して、命の大切さや生物の多様性と恩恵を学び、地域の様々な人たちに支えられ、また地域に愛され、賑わいをもたらす持続可能な夢見ヶ崎動物公園の実現を目指します。

計画の構成

目指すべき将来像



将来像の実現に向けたコンセプト

基本コンセプト



将来像を実現するための視点

3つの基本的な視点



視点に基づく施策の方向性

4つの基本方針

9 将来像を実現するための3つの基本的な視点と4つの基本方針

(1) 3つの基本的な視点

基本目標を実現させるため、公園の方向性を踏まえ、以下の3つの視点から基本方針、具体的な取組を行います。

わくわく

●基本的な視点①

快適でわくわくする空間の創出

ふれあい

●基本的な視点②

親しみ、ふれあいたくなるようなコンテンツの充実

**みんなで
つくる**

●基本的な視点③

みんなで作る協働の輪の構築

(2) 4つの基本方針

基本的な視点に沿って、以下の4つの基本方針を設定します。

基本的な視点①

●基本方針1

施設の計画的なリニューアルに合わせた展示の工夫や園内の利便性・快適性の向上

魅力的な展示と来園者が快適に利用できるように園内環境や利便性を向上させるための施設等の整備を実施します。

基本的な視点②

●基本方針2

夢見ヶ崎動物公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの充実

身近に自然・動物を感じられる夢見ヶ崎動物公園の特色を活かし、貴重な動物の生態や、自然環境についての詳しい紹介や、環境教育などのプログラムを充実させます。

●基本方針3

夢見ヶ崎動物公園の魅力を伝える効果的な情報発信力の強化

イベント情報や動物情報、季節の草花などの様々な情報をSNSやICTなどの多様な媒体を用いて発信するとともに、様々な主体との連携による情報発信の強化と広報活動を充実させます。

基本的な視点③

●基本方針4

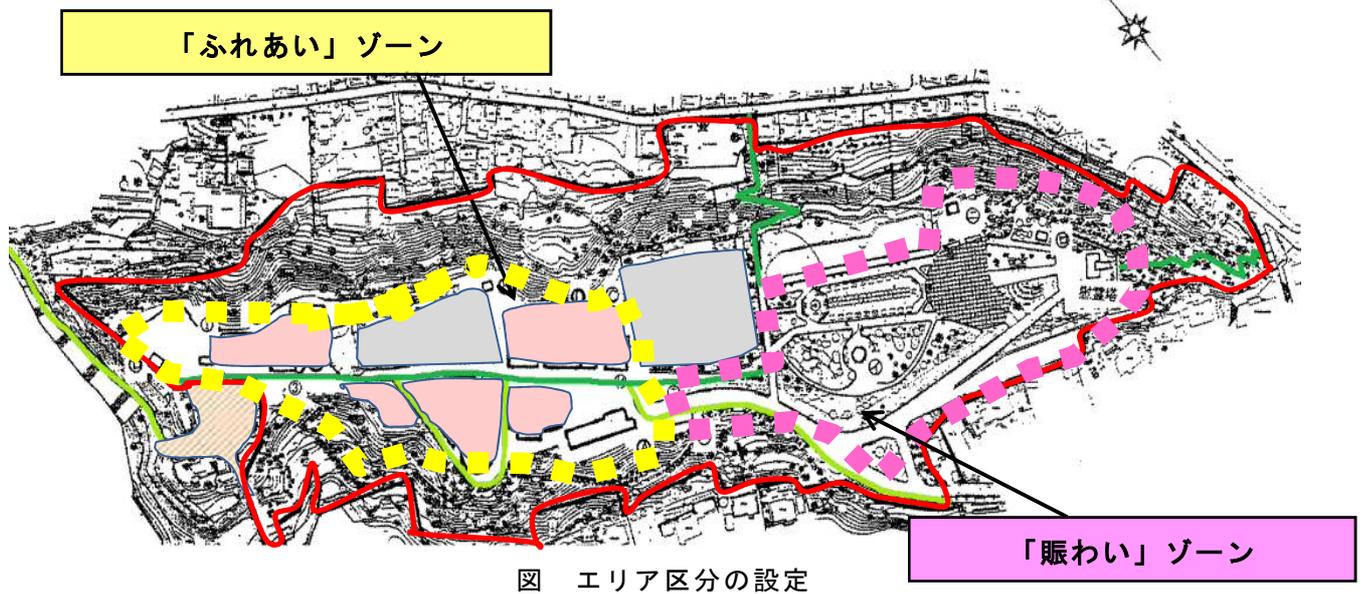
多様な主体との連携の充実による賑わいの創出や、収益性の向上に向けた取組及び持続可能なマネジメントの構築

市民、企業、NPO及び大学等との連携の強化による地域の賑わいの創出と持続可能なマネジメントの構築に向けた取組を推進します。

10 区域全体の考え方

(1) エリア区分

夢見ヶ崎動物公園が目指す将来像等を踏まえ、エリア区分を設定します。



「ふれあい」ゾーン

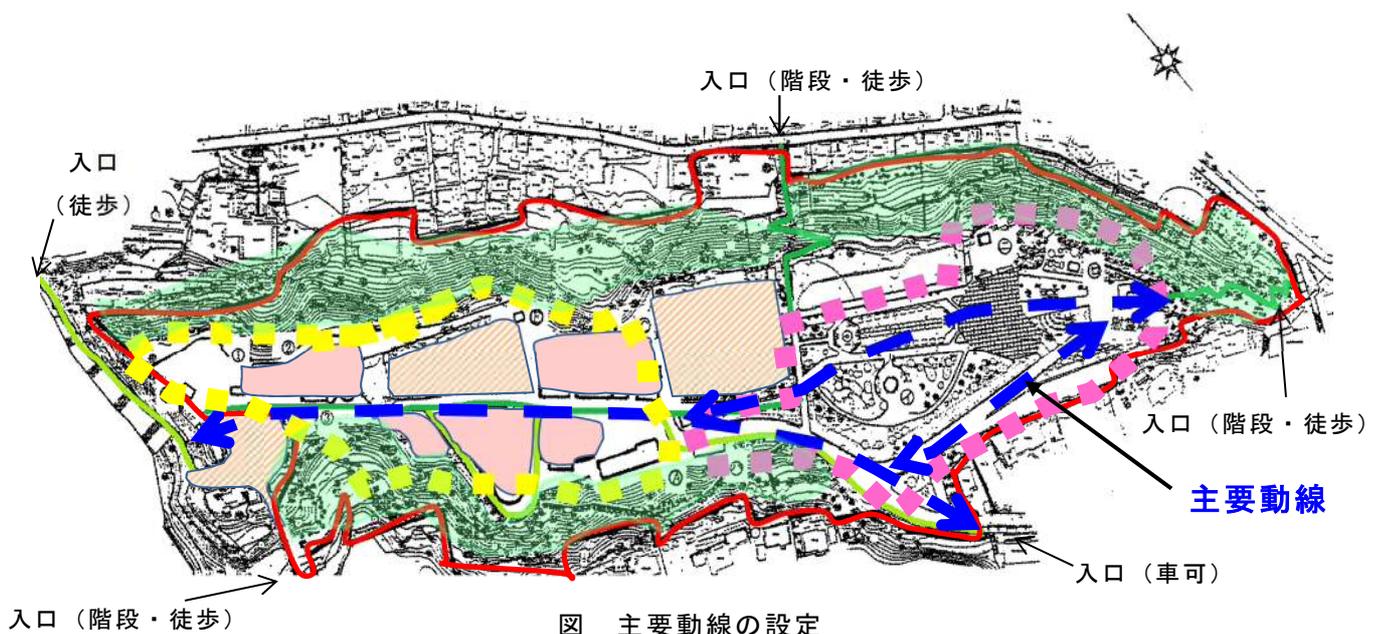
主に、動物展示を中心とした動物とのふれあい、環境学習などを行うゾーン

「賑わい」ゾーン

主に、イベント、飲食等のサービス、自然を活かした遊びなどを行うゾーン

(2) 動線計画

各エリアを回遊する主要動線として、以下を設定します。



11 基本方針に基づく取組の方向性と主な内容

4つの基本方針を実現していくための具体的な取組を示します。これらの取組を実践することにより、夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしながら、地域コミュニティの核として、魅力と賑わいのある持続可能な動物公園を目指します。

また、各基本方針に基づく具体的な取組は、エリア区分の特色を踏まえて推進するものとします。

基本方針 1

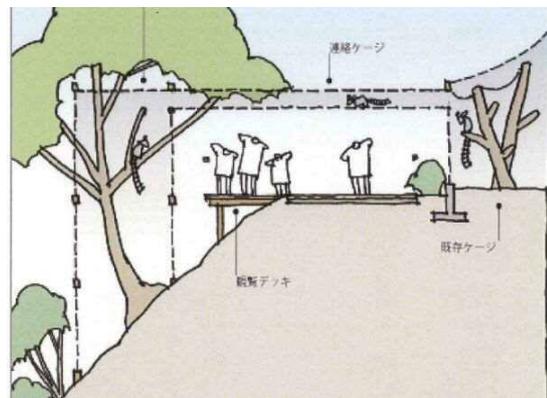
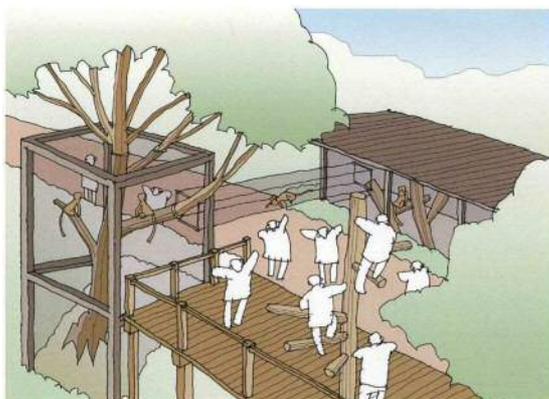
施設の計画的なリニューアルに合わせた展示の工夫や園内の利便性・快適性の向上

【施設整備の考え方】

動物飼育施設や公園施設は、全体的に老朽化が進行しており、施設の更新等が必要な状況となっています。施設更新に合わせて、以下の考え方で整備の検討を行います。

展示の工夫のイメージ

- ◎現状の施設配置を基本として、更新を進めます。
- ◎施設更新に合わせて、いきものとふれあえる環境を創出します。
- ◎公園の地形、自然環境を活かした展示の工夫を行います。
- ◎自然環境を活かした遊びができる空間の創出を図ります。
- ◎利用しやすい園内環境の実現を図ります。



イメージは、周辺の斜面地及び樹林を活用し、木登りが得意な動物（サル類など）の木登りや採餌等の行動を、来園者の間近で展示するものです。

取組の方向性と主な内容

(1) わくわく感であふれた施設整備

- ・加瀬山の自然や起伏を活かした展示の工夫を取入れた老朽化した獣舎等の更新・補修
- ・いきものとふれあえる場所の整備と適切なふれあい動物種の展示
- ・楽しく遊びながら森の大切さや歴史を知る遊具等の整備

(2) 安全で快適な園内環境の整備

- ・乳幼児から高齢者までの全ての来園者が快適に利用できる施設（休憩スペースや授乳室の設置及び園内舗装等）への改修
- ・主要動線における園内舗装・案内サインの設置による安全性・快適性の向上
- ・樹林・植物等の適正な維持管理



遊具等の整備イメージ（米ブロンクス動物園）



動物ふれあいコーナー（浜松市動物園）

基本方針 2

夢見ヶ崎動物公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの充実

取組の方向性と主な内容

- (3) 動物たちとの距離を身近に感じられるふれあいプログラムの実施
 - ・動物ふれあいコーナー設置における動物ふれあいプログラムの実施
 - ・動物園ガイドツアーやバックヤードツアーの定期的実施
- (4) 都心に残る身近な自然の中で、緑の保全の重要性や加瀬山の歴史を学ぶ体験型プログラムの実施
 - ・バードウォッチングなど自然観察会の開催
 - ・ボランティア団体による加瀬山散策ガイドの開催
- (5) 子どもたちの知的好奇心を醸成させる命の教育や環境教育の実施
 - ・好奇心をくすぐる校外学習の充実
 - ・職業体験、インターンシップ及び研修受入れ時の教育プログラムの充実



動物ふれあいプログラム



野鳥観察会
(川崎市青少年科学館)



イヌワシによる教育プログラム
(秋田市大森山動物園)

基本方針 3

夢見ヶ崎動物公園の魅力を伝える効果的な情報発信の強化

取組の方向性と主な内容

- (6) インターネットやスマートフォンの普及に対応したSNSやICTを活用した夢見ヶ崎動物公園の情報やイベント状況の発信
- ・ 夢見ヶ崎動物公園に関心を示してもらえる魅力的な情報の充実
 - ・ 来園者に動物の個体をもっとよく知ってもらい、愛着を深められる情報の提供
 - ・ 夢見ヶ崎動物公園の魅力が伝わるロゴ・キャッチコピー等の作成・活用によるブランドイメージの向上
- (7) 様々な主体との連携による情報発信の充実
- ・ 公共交通機関や地元商店街、サポーターとの連携による情報発信
 - ・ 市内北部で開催されるイベントを通じた広報活動
 - ・ 幸区役所と連携した情報発信



夢見ヶ崎動物公園応援バスとその車内



QRコードを活用した動物展示ガイド
(天王寺動物園 出典「THE PAGE」)



様々な主体との連携による
広報・宣伝（イメージ図）

基本方針 4

多様な主体との連携の充実による賑わいの創出や、収益性の向上に向けた取組及び持続可能なマネジメントの構築

取組の方向性と主な内容

(8) 多様な主体との連携による取組の充実

- ・ サポーターや夢見ヶ崎動物公園に関わる様々な地域団体や企業におけるネットワーク形成の推進と主体の持続性の確保
- ・ 民間活力導入を含めた飲食・物販サービスの提供
- ・ 区役所や民間団体、地域活動団体等と連携した夢見ヶ崎動物公園の特色を活かしたイベントの推進
- ・ 夢見ヶ崎動物公園に関わる子どもから高齢者までの幅広い世代の方々が自由な発想で議論・提案できる場づくり
- ・ ガイドボランティアの育成
- ・ 広場を利用したイベントやワークショップの開催、地元幼稚園等による発表会や動物絵画展の開催などサポーターが主体となった市民参加型イベントの実施
- ・ 動物をモチーフにしたオリジナル商品の開発・販売
- ・ イベント時の飲食ブースの出店やキッチンカーなどの取組の推進



地域や活動団体の意見が反映される組織体
(生田緑地マネジメント推進会議)



飲食の提供（キッチンカー）
(生田緑地)

(9) 他都市動物園、NPO、大学及び動物専門学校との連携による種の保存等の推進

- ・他都市動物園との動物交換等の連携による展示動物の確保や繁殖の推進
- ・大学及び動物専門学校との連携による調査・研究の取組の推進
- ・NPO法人野生動物救護獣医師会神奈川支部との連携による野生動物リハビリテーター資格取得者の確保による負傷野生動物保護の推進

(10) 持続可能なマネジメントの仕組みの構築

- ・持続可能なマネジメントの仕組みの検討（民活導入の検討を含む）と取組の推進
- ・ネーミングライツや駐車場の有料化等による財源確保の取組の推進

(11) 人材育成による職員の飼育技術の習得・継承、接遇の向上

- ・専門機関や動物園への派遣研修の充実
- ・おもてなし意識の向上、ホスピタリティの醸成



粘着剤で汚染されたスズメの羽のケア



アムールトラの人工授精

(円山動物園と大学の共同研究)

12 計画事業スケジュール

本計画の事業を進めるにあたり、ハード面での基盤整備を早期に取組み、その基盤整備のもと、ソフト面での動物とのふれあい等のイベントや多様な主体との連携による取組を充実し、エリア全体の魅力と賑わい創出に向けた取組を進めます。また、事業スケジュールについては、庁内の関係課で構成されている夢見ヶ崎動物公園あり方庁内検討会議において、進捗管理を行っていきます。

表 計画事業スケジュール

基本方針	短期 H30～H33 (2018～2021) 年度	中期 H34～H37 (2022～2025) 年度	長期 H38～ (2026) 年度
基本方針 1 施設の計画的なリニューアルに合わせた展示の工夫や園内の利便性・快適性の向上	再整備に向けた検討 民活導入に向けた検討 (基本方針4)	検討結果を踏まえた取組の推進	
基本方針 2 夢見ヶ崎動物公園全体の特色を活かした体験やふれあいができるプログラムの充実	動物に関するプログラム・イベントの充実（ふれあいイベント等）		
	自然や歴史を活かしたプログラムの推進		
基本方針 3 夢見ヶ崎動物公園の魅力を伝える効果的な情報発信力の強化	SNS の活用など様々な媒体を活用した情報発信の推進		
	様々な主体（商店街、交通機関等）との連携による情報発信		
基本方針 4 多様な主体との連携の充実による賑わいの創出や、収益性の向上に向けた取組及び持続可能なマネジメントの構築	多様な主体との連携による取組の充実 等		
	持続可能なマネジメントの仕組みの検討(民活導入の検討を含む)	持続可能なマネジメントの取組の推進	

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

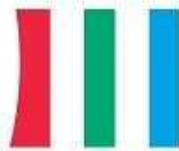
川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園

〒212-0055 川崎市幸区南加瀬1-2-1

電話 044-588-4030 F A X 044-588-4043